

# 消化器・肝臓センター



## NEW-す NO.27

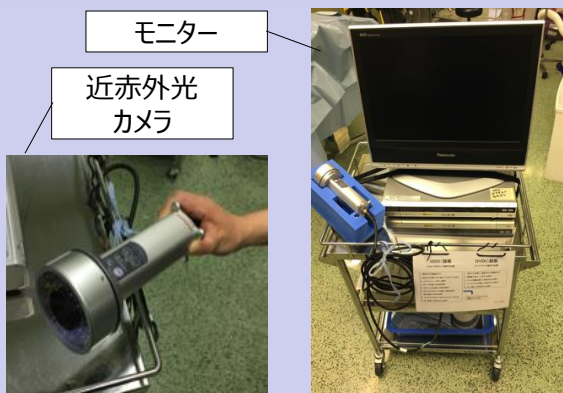


2017.9

## 術中ナビゲーションとしての ICG蛍光法を用いた 腸管血流評価の有用性



ICG試薬

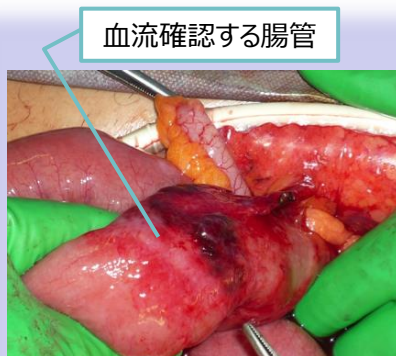


モニター  
近赤外光  
カメラ

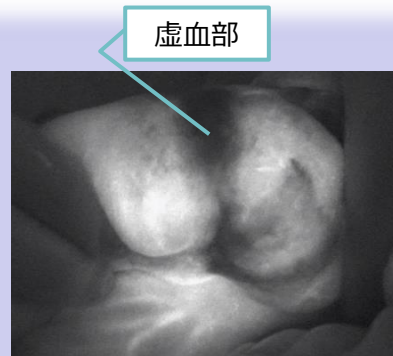
腸管切除、縫合を伴う手術を行う際に腸管虚血を見逃すと術後に同部位からの縫合不全を引き起こしてしまう事があり、それに引き続き腹膜炎や膿瘍形成などが発生すると患者さまのQOLを著しく損なうだけでなく多大な医療費が必要になります。

ICG 5mg/2mlを静脈投与した後、近赤外光カメラシステム (Photodynamic Eye)を用いて血流確認を要する腸管部位の術中評価を行っている。

以前は術中腸管血流を色調、蠕動、動脈拍動、出血などで肉眼的に評価していましたがしばしば判断が難しい症例にも遭遇しました。現在、当院では腸管虚血評価を客観化するために術中にICG (Indocyanine Green) 蛍光法を用いております。重篤な合併症を未然に防ぐ上で有用でありかつ手技的簡便さも持ち合わせています。



血流確認する腸管



虚血部

絞扼性イレウス症例。左が肉眼像、右がICG蛍光法を用いた画像。虚血部位が一目瞭然です。

当院消化器・肝臓センターでは消化器疾患に対する専門的治療を幅広く実践しております。何かお困りの際にはお気軽に当センターへご相談ください。

市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

外科 荻野崇之

